



# 2023年10月期 決算説明資料

株式会社オハラ(証券コード:5218)

Dec.14<sup>th</sup>.2023



# CONTENTS

## 1 2023年10月期 決算の概況

---

- 2023年10月期の状況
- 業績サマリー
- 光事業
- エレクトロニクス事業
- 営業損益増減要因
- キャッシュ・フロー

## 2 2024年10月期 業績見通し

---

- 見通しサマリー
- 今後の事業環境について
- 光事業見通し
- エレクトロニクス事業見通し
- 半期推移まとめ
- 設備投資、減価償却費、研究開発費

## 3 中期経営計画(フェーズ2)

---

- 中期経営計画(フェーズ1)の振り返り
- 長期ビジョン2035と中期経営計画(フェーズ2)の位置付け
- 基本戦略と財務指標
- 光事業
- エレクトロニクス事業
- トピックス(バッテリー向け製品)
- 財務指標まとめ

# 2023年10月期 決算の概況

## 事業環境

- 新型コロナウイルス感染症に対する行動制限緩和などにより、経済活動の正常化が進み緩やかな回復が続いた
- ロシア・ウクライナ情勢、中国国内における不動産市況の低迷、世界的なインフレの加速、不安定な為替相場などにより、先行き不透明な状況
- デジタルカメラ市場は、ミラーレスカメラの販売が増加したことなどから堅調に推移
- 露光装置市場は、半導体露光装置は堅調に推移したが、FPD露光装置は弱含みで推移

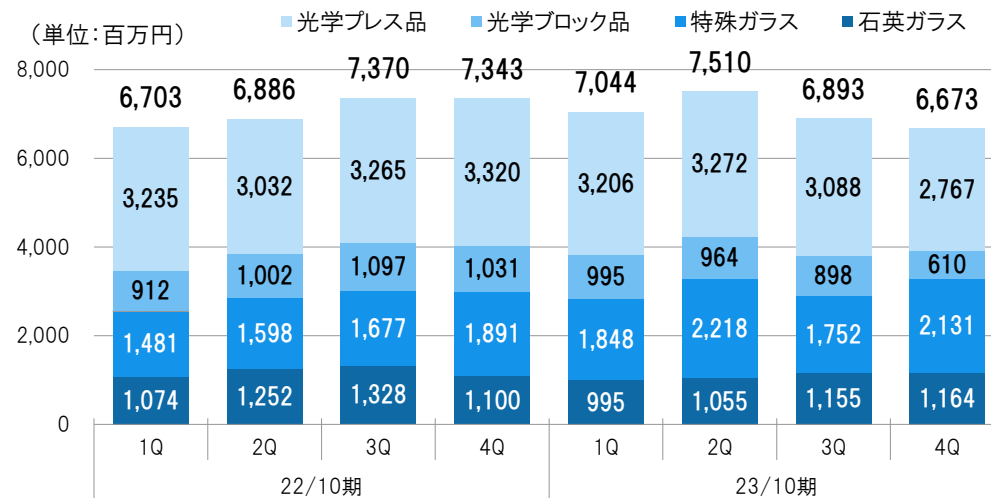
## 当社状況

- 売上高は半導体露光装置向け高均質光学ガラスの販売が増加したものの、サプライチェーン内の在庫調整の影響により光学機器向けレンズ材の販売が減少したことなどから前年同期比0.6%の減収
- 営業損益は高付加価値品の売上が増加したものの、原燃料費の高騰、販管費の増加、生産設備の稼働率低下などにより、前年同期比25.0%の減益

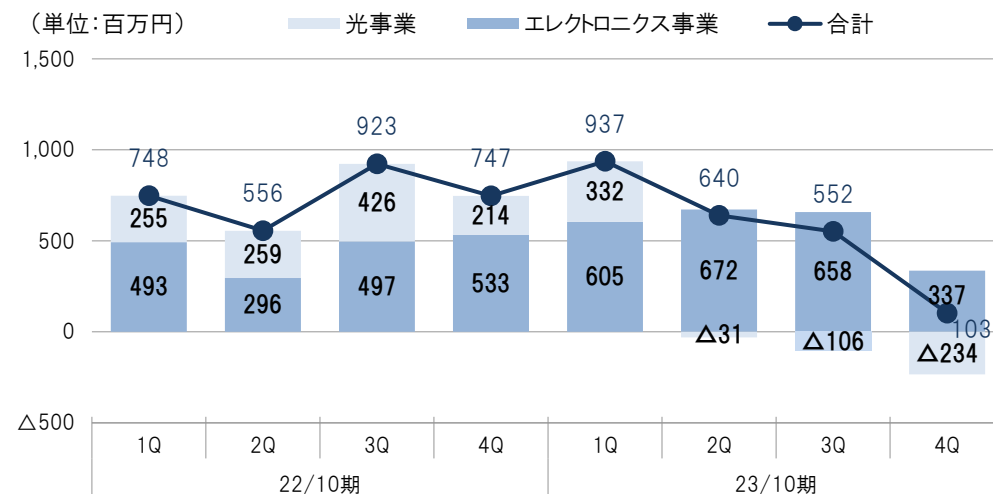
(単位:百万円、%)

	22/10期 通期	23/10期 通期	増減 増減率
売上高	28,304	28,123	△181 △0.6%
営業利益	2,976	2,233	△742
[営業利益率]	10.5%	7.9%	△25.0%
経常利益	3,665	2,603	△1,062
[経常利益率]	13.0%	9.3%	△29.0%
純利益 (親会社株主に帰属)	2,116	1,572	△544
[純利益率]	7.5%	5.6%	△25.7%
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 127.39 135.64	期中平均 139.28 149.49	

## 売上高四半期推移



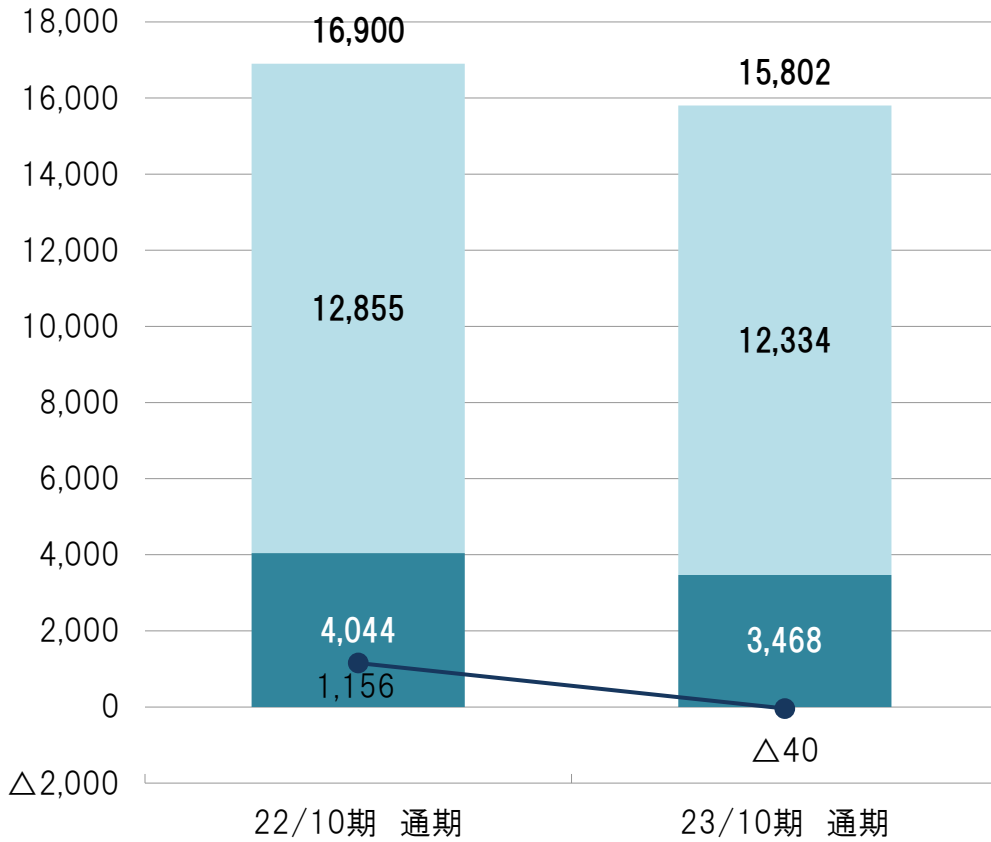
## 営業利益四半期推移



## 通期対比

光学プレス品売上高 光学ブロック品売上高 営業利益

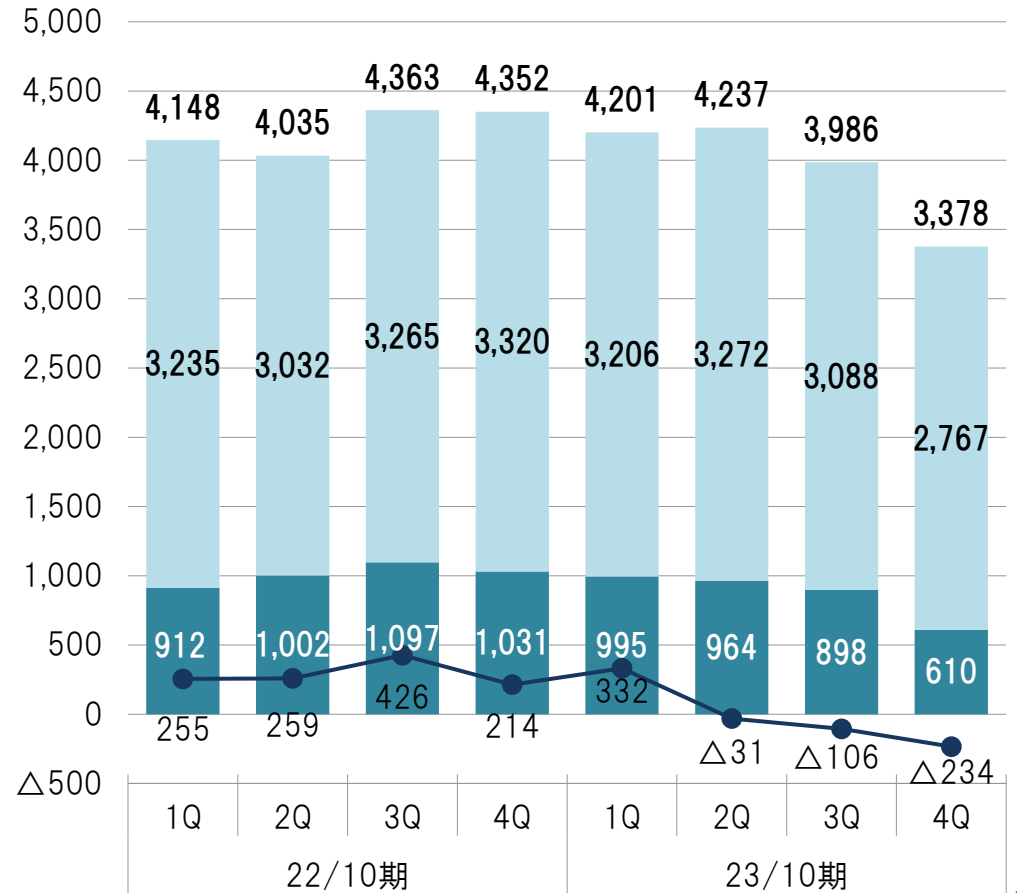
(単位:百万円)



## 四半期推移

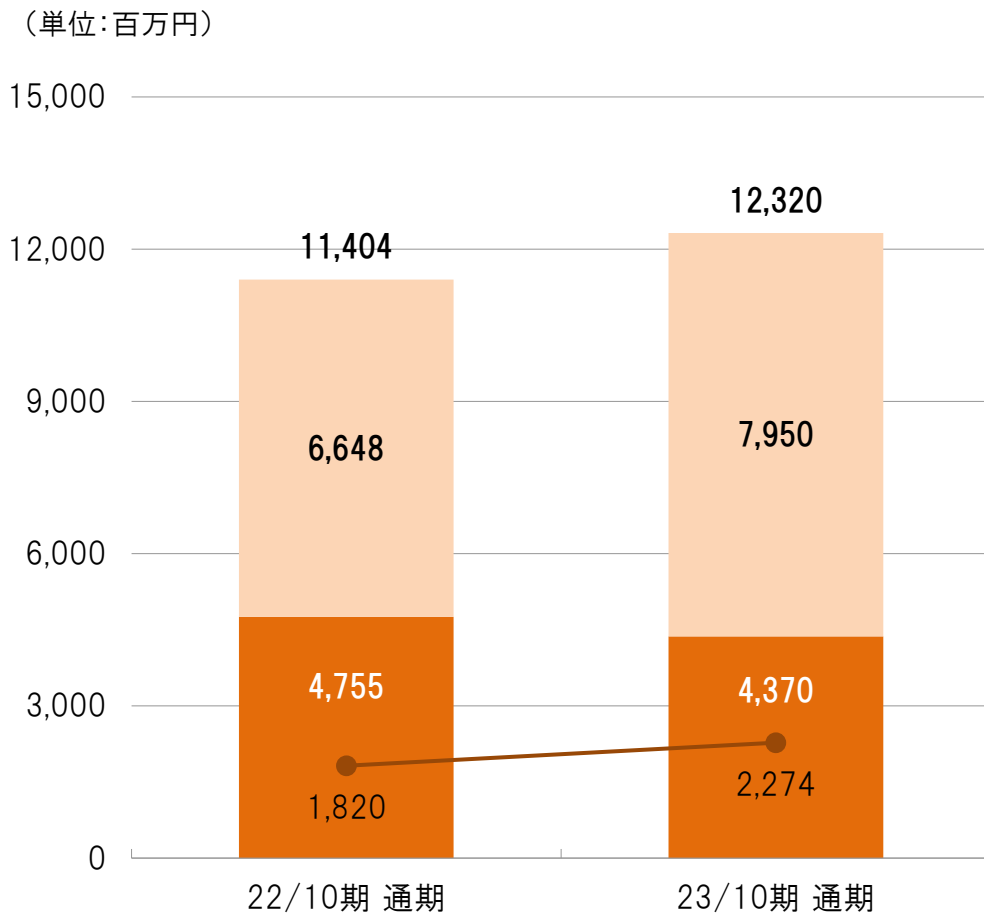
光学プレス品売上高 光学ブロック品売上高 営業利益

(単位:百万円)



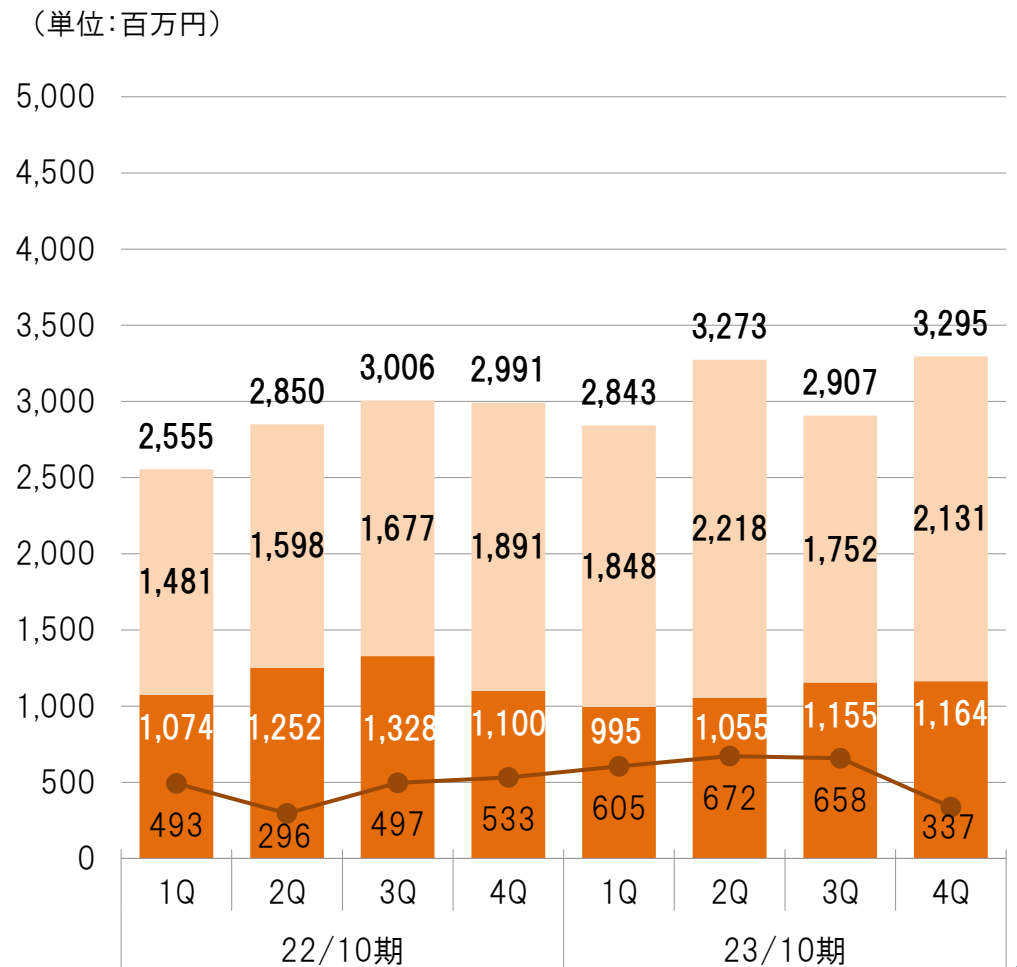
## 通期対比

特殊ガラス売上高 石英ガラス売上高 営業利益



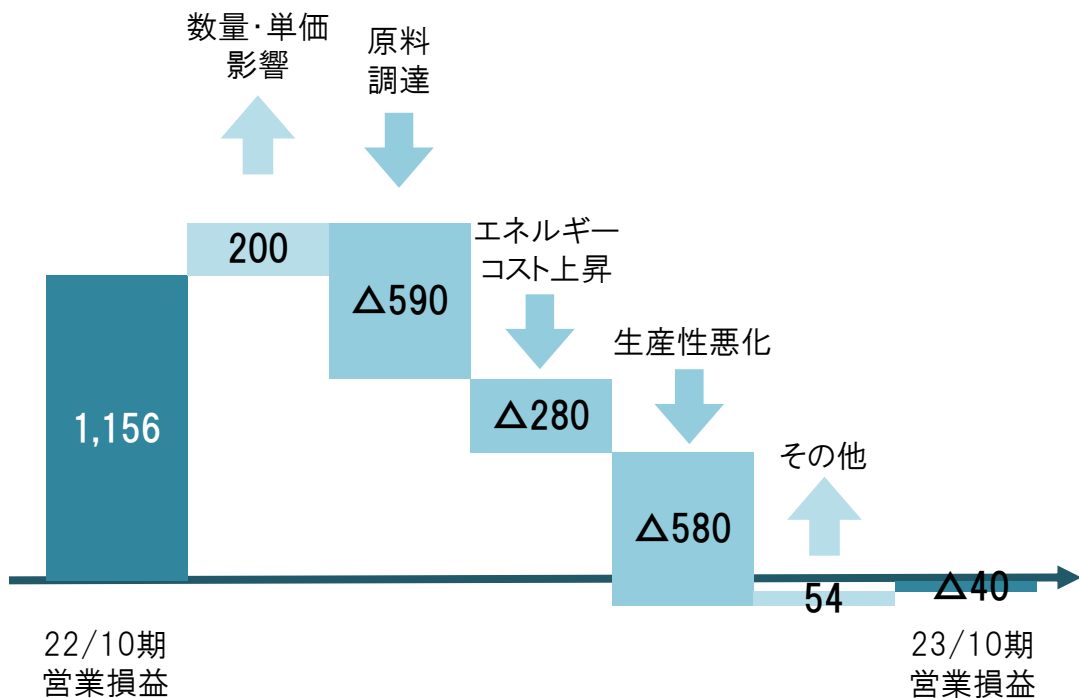
## 四半期推移

特殊ガラス売上高 石英ガラス売上高 営業利益



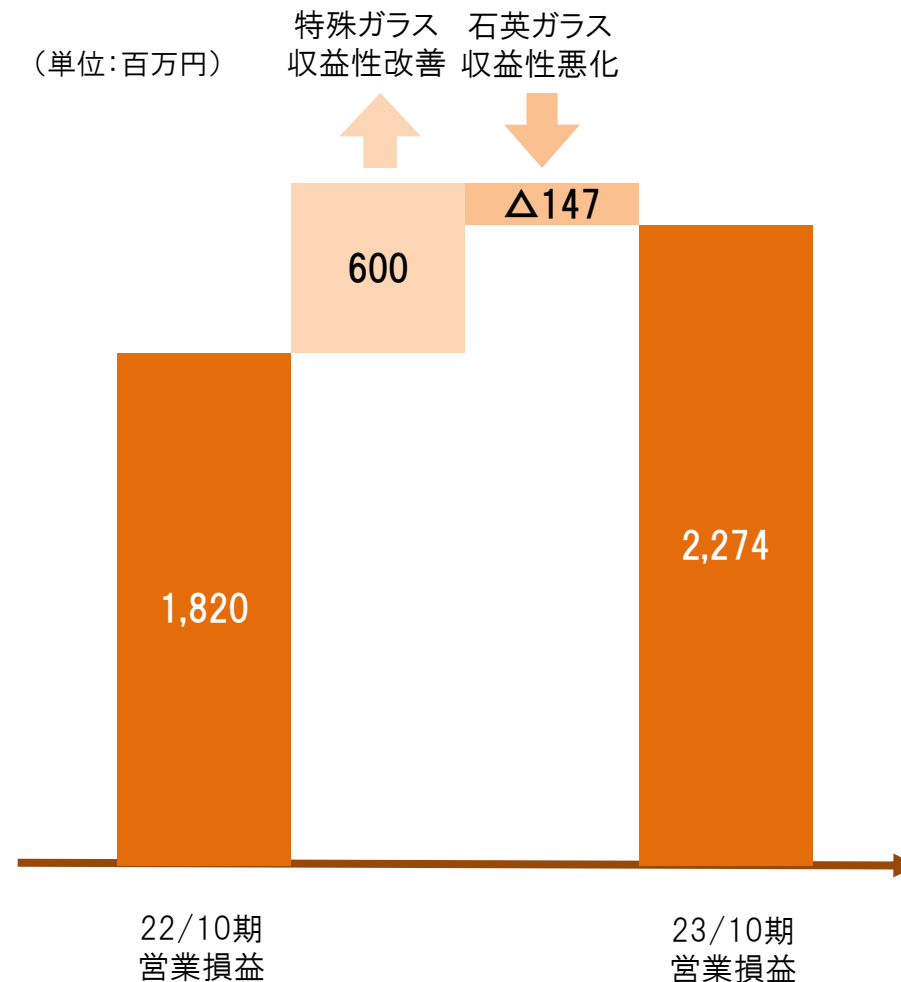
## 光事業

(単位:百万円)



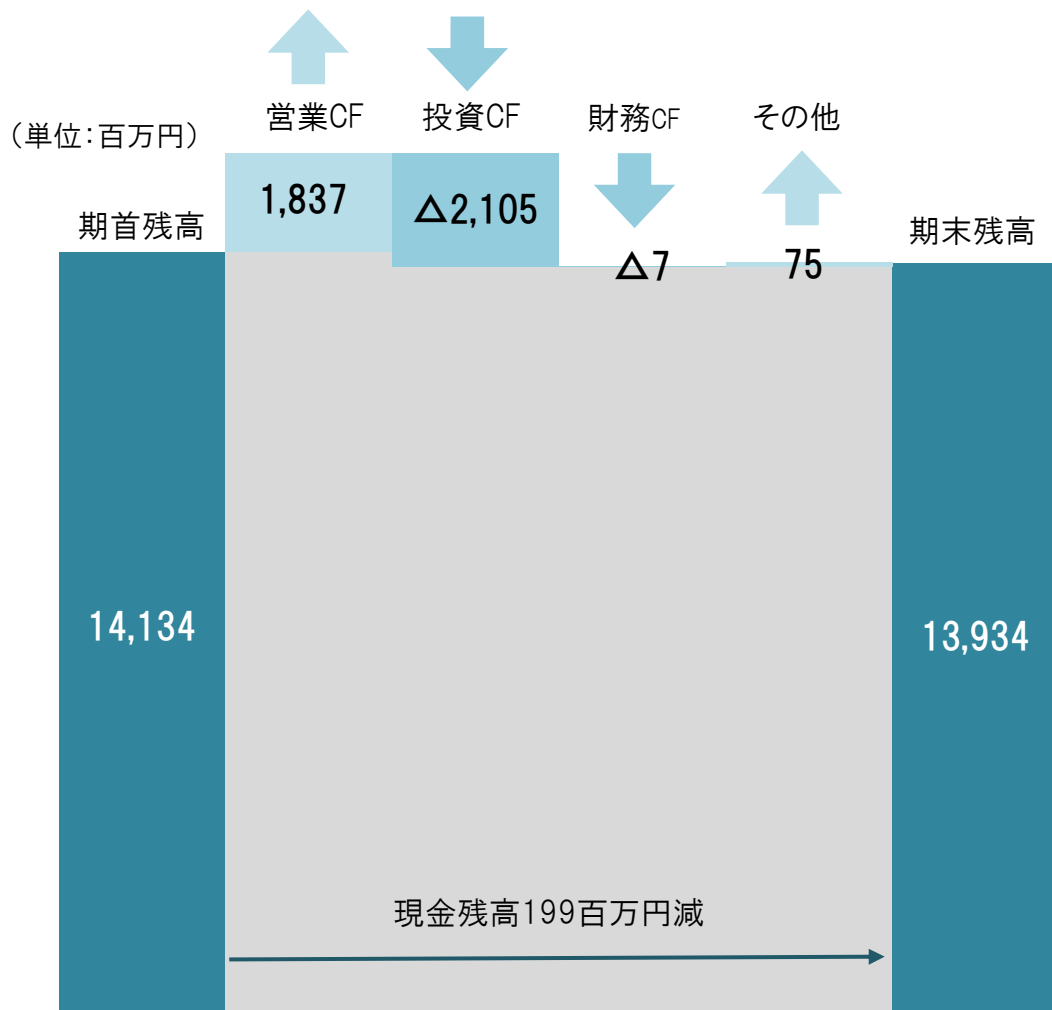
## エレクトロニクス事業

(単位:百万円)

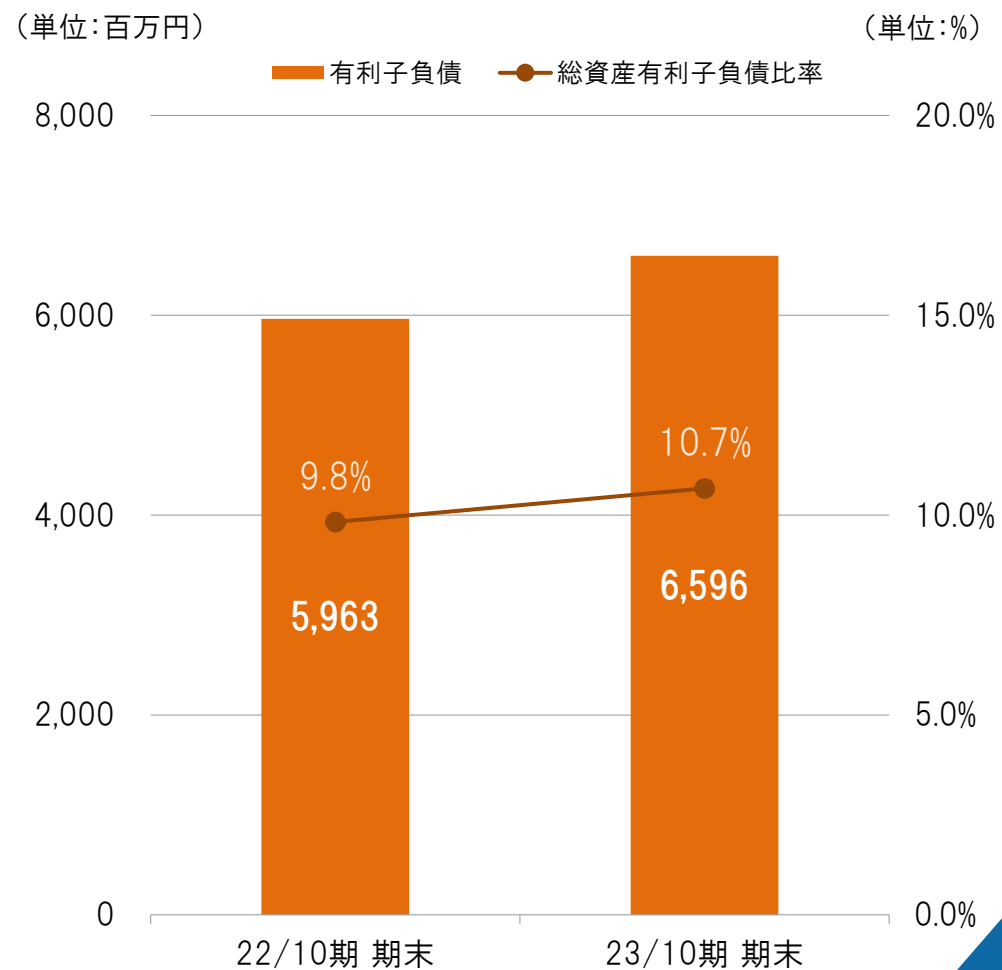




## 増減要因



## 有利子負債

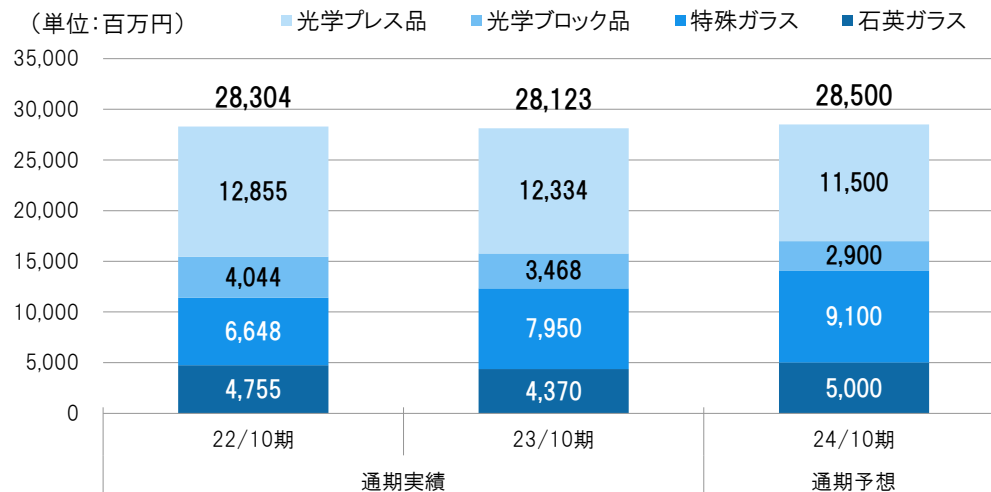


# 2024年10月期 業績見通し

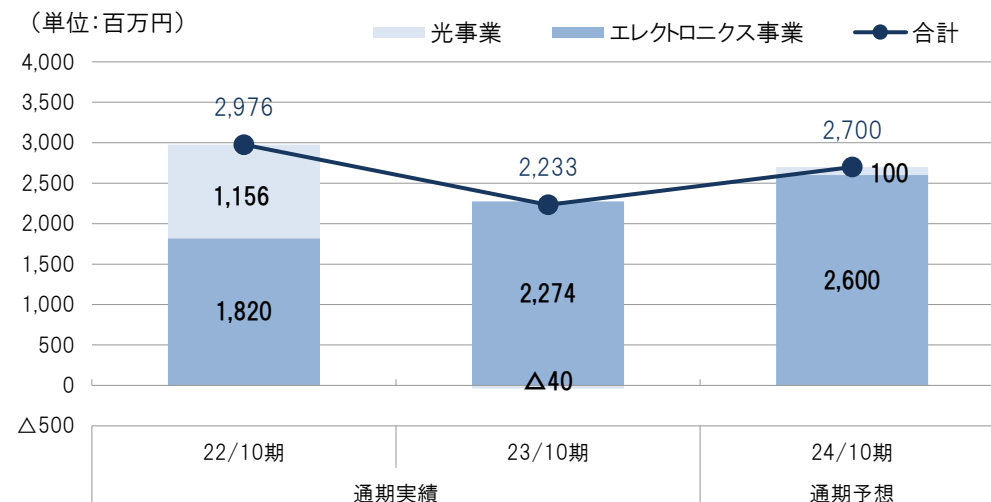
(単位:百万円、%)

	23/10期 通期	24/10期 通期予想	増減 増減率	24/10期 上期予想
売上高	28,123	28,500	376 1.3%	13,600
営業利益	2,233	2,700	466 20.9%	1,000
[営業利益率]	7.9%	9.5%		7.4%
経常利益	2,603	2,900	296 11.4%	1,100
[経常利益率]	9.3%	10.2%		8.1%
純利益 (親会社株主に帰属)	1,572	1,800	227 14.5%	700
[純利益率]	5.6%	6.3%		5.1%
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 139.28 149.49	期中平均 140.00 150.00		
年間配当金 (円)	20.0	23.0		

## 売上高内訳



## 営業利益内訳



## 光事業

### ■ デジタルカメラ市場

ミラーレスカメラの新製品が需要を底支えていることから、当面は横ばいで推移する見込み

### ■ 光学機器市場

画像認識技術や拡張現実技術の進展により、品質の高い光学ガラスに対するニーズが高まる見込み

## エレクトロニクス事業

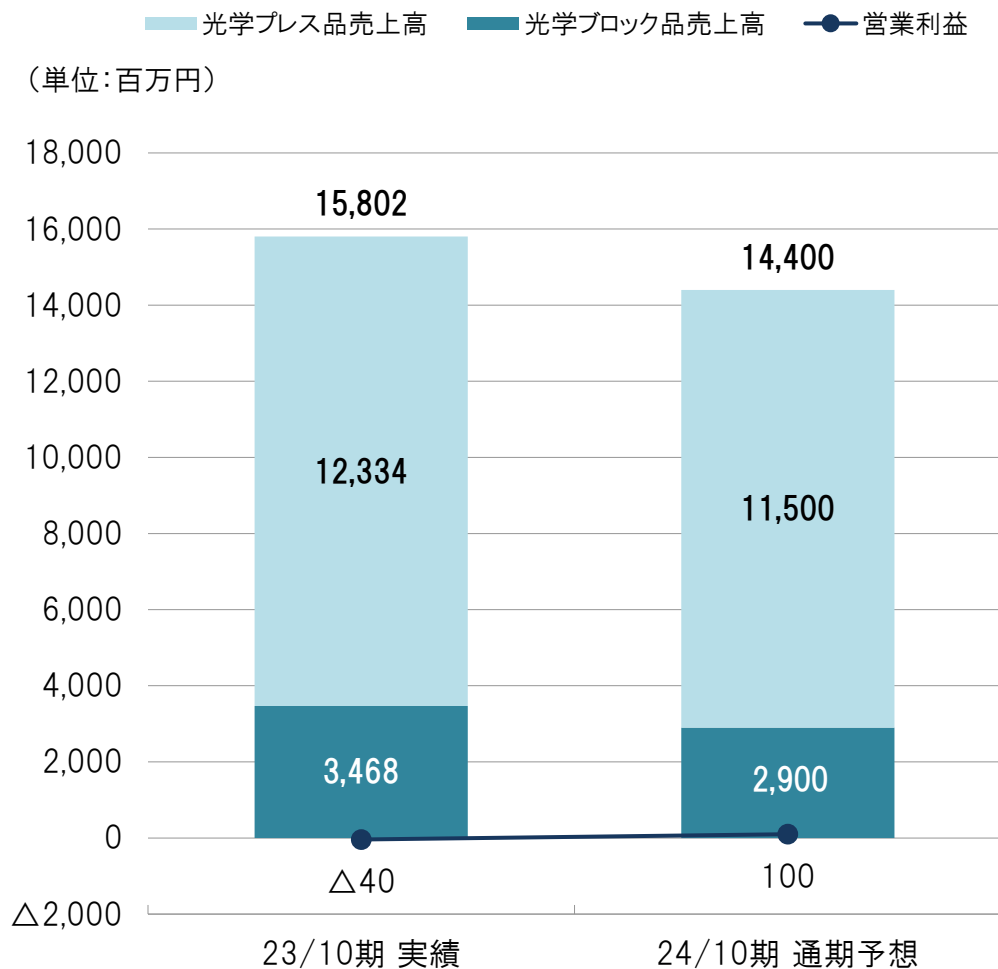
### ■ 半導体露光装置市場

メモリ需要に減速感が見られるものの、パワー半導体などは旺盛な需要が続いていることから、設備投資は堅調に推移する見込み

### ■ FPD露光装置市場

大型設備投資案件の減少により弱含みで推移する見込み

## 通期対比



## 見通しのポイント

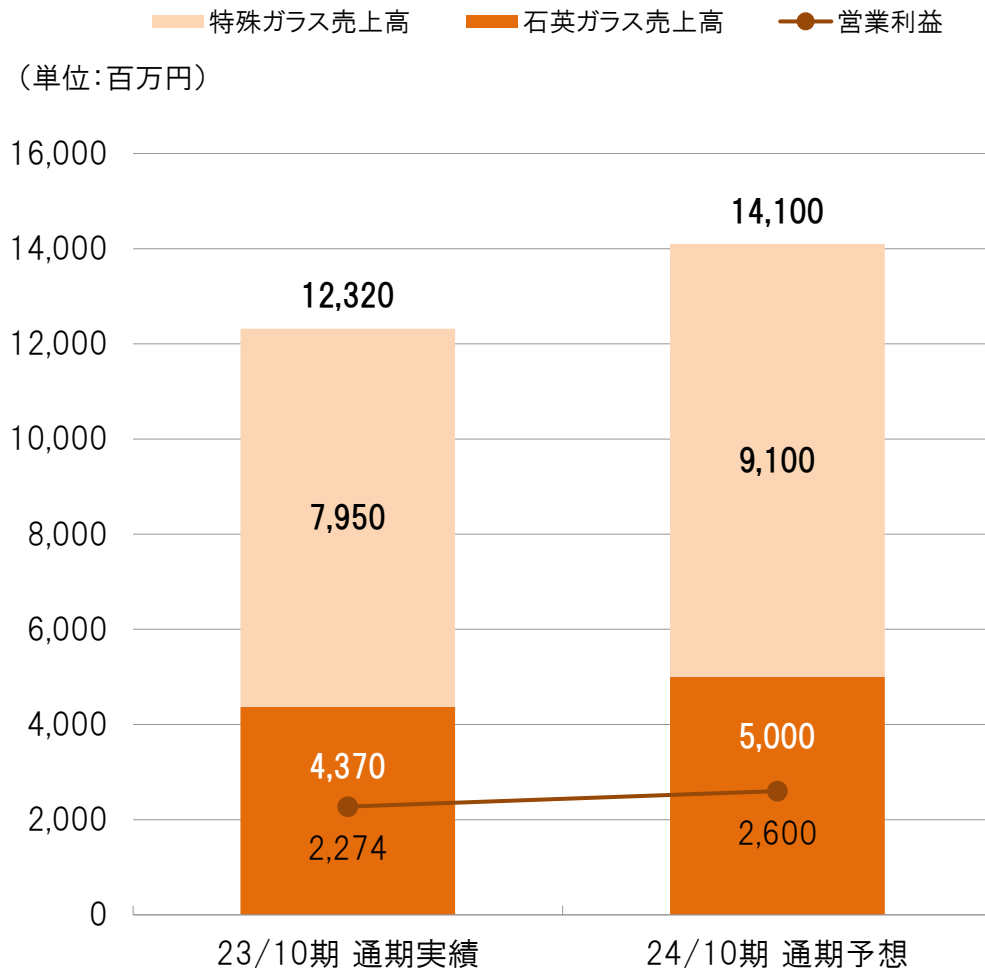
### 【売上高】

- ▶前期比△8.9%の減収見込み
- ▶光学プレス品、光学ブロック品は、24/10期上期はサプライチェーン内の在庫調整が続くものの、下期にかけて徐々に解消する見込み

### 【営業利益】

- ▶前期比+140百万円の増益見込み
- ▶原燃料費の高騰がピークアウトし、期末に向けて徐々に影響が緩和される見込み
- ▶在庫調整の解消に伴い生産設備の稼働率が回復に向かう見込み

## 通期対比



## 見通しのポイント

### 【売上高】

- ▶ 前期比+14.4%の増収見込み
- ▶ 半導体露光装置向け高均質光学ガラス、石英ガラスの需要が堅調に推移する見込み

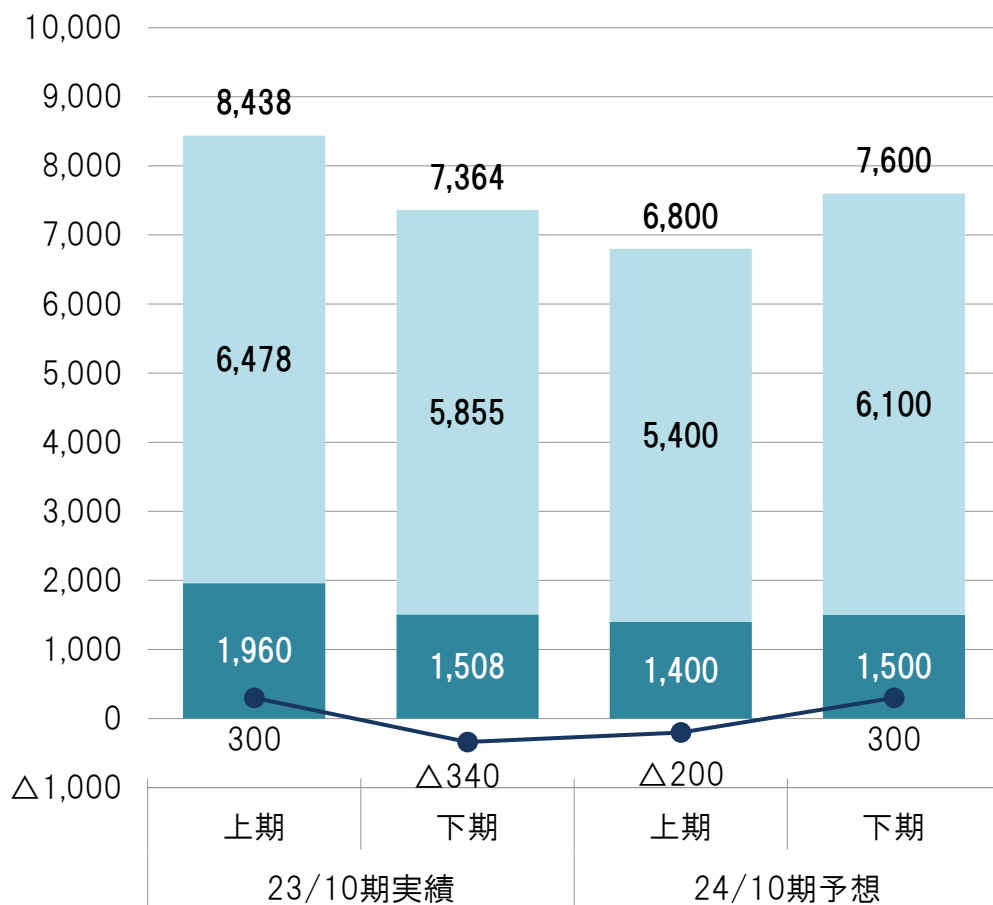
### 【営業利益】

- ▶ 前期比+14.3%の増益見込み
- ▶ 半導体向け製品の増産、売上の増加により利益が増加する見込み

## 光事業

(単位:百万円)

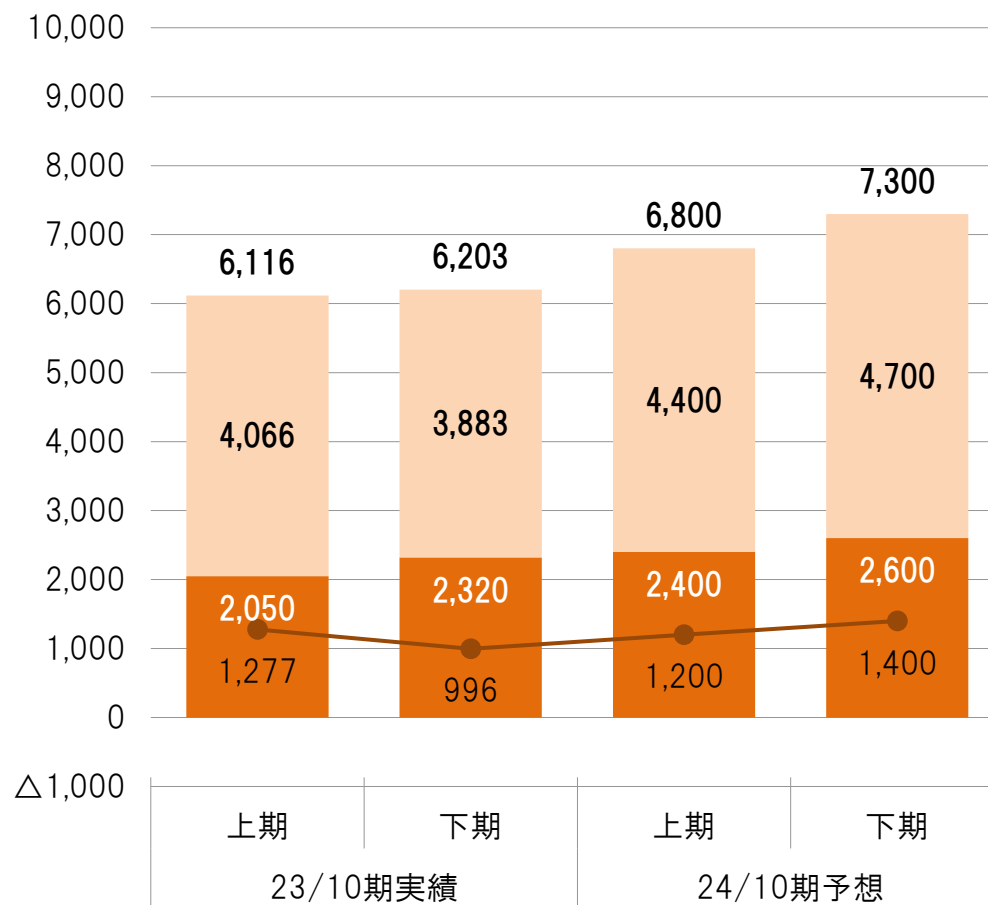
光学プレス品売上高 光学ブロック品売上高 営業利益



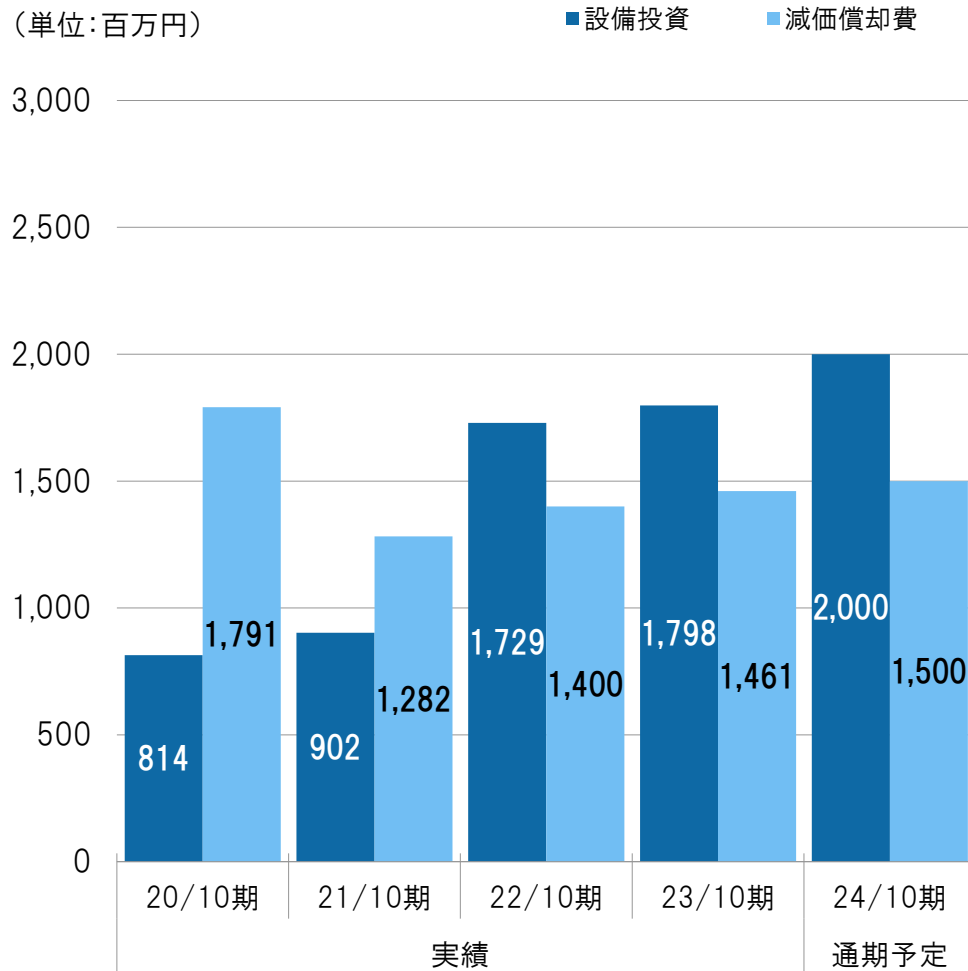
## エレクトロニクス事業

(単位:百万円)

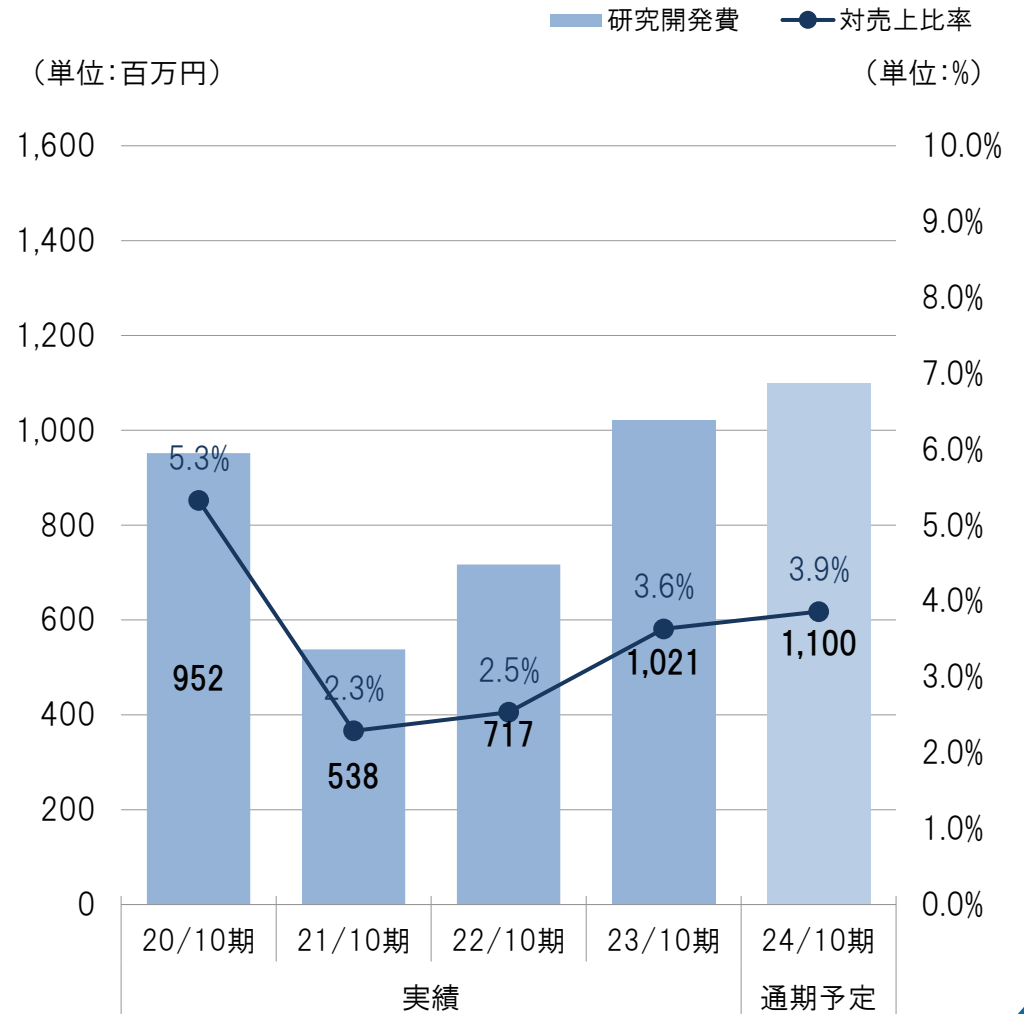
特殊ガラス売上高 石英ガラス売上高 営業利益



## 設備投資、減価償却費



## 研究開発費





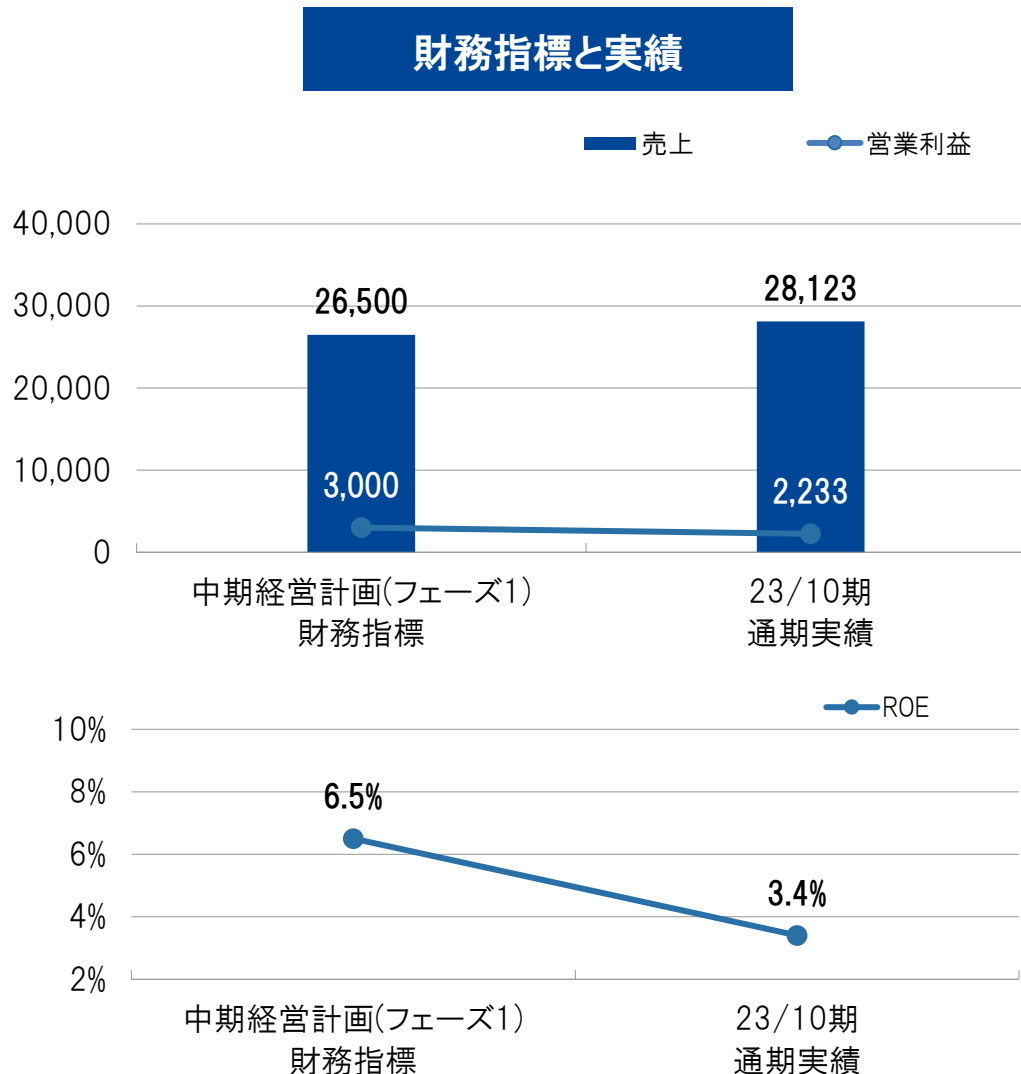
# 中期経営計画(フェーズ2)

2024年10月期～2026年10月期

## 前中期経営計画方針

▶コロナ禍により落ち込んだ業績回復を最優先事項とし、事業構造の立て直しと財務体質の改善を進め、次期中期経営計画(フェーズ2)に向けて収益基盤を整える

### 財務指標と実績



#### 【売上高】 ○達成

- ▶財務指標に対して、6.1%増収
- ▶デジタルカメラ市場の急回復、半導体市場の拡大と共に、レンズ加工品や半導体露光装置向け光学ガラスなどの高単価、高付加価値品へのシフトを進めたことから、売上目標を達成することができた。

#### 【営業利益】 ×未達成

- ▶財務指標に対して、△25.5%減益
- ▶新規事業の立ち上げによる製品ミックスの改善を目指していたが、立ち上げが遅れた。また、想定以上に原燃料価格が高騰した影響から、利益目標は未達となった。

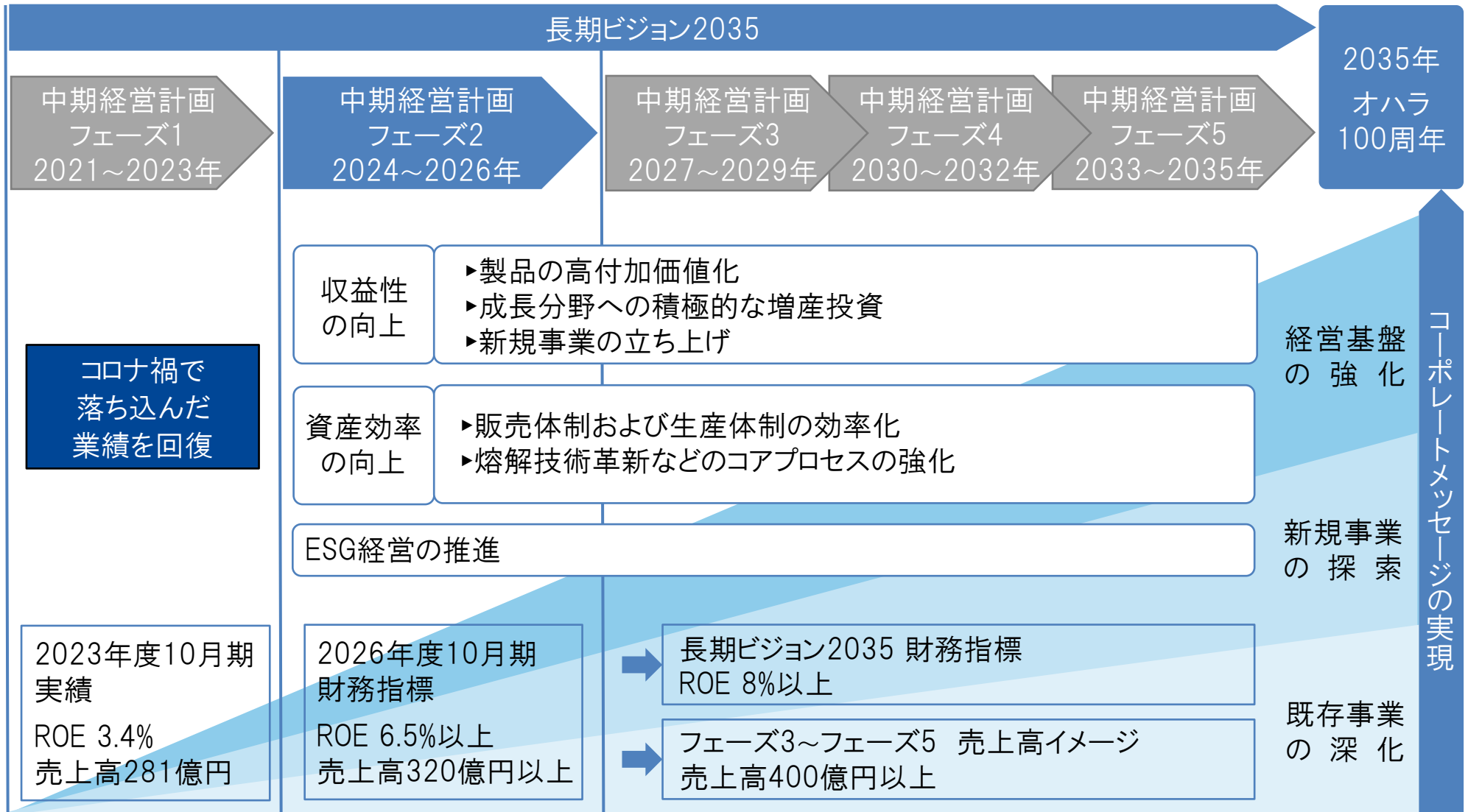
#### 【ROE】 ×未達成

- ▶財務指標に対して△3.1ポイント
- ▶利益目標が未達であったことに加え、総資産回転率の悪化などにより、目標未達となった。

# 長期ビジョン2035と中期経営計画(フェーズ2)の位置付け

コーポレート・メッセージ

オハラが願う未来・社会の姿  
 安心して快適な生活。創造と希望にあふれた社会。健やかな地球。



# 基本戦略と財務指標

経営基盤  
の強化

新規事業  
の探索

既存事業  
の深化

## 【収益性の向上】

- ▶ 既存製品は付加価値を高めた製品の拡販 および 半導体などの成長分野の製品の生産能力を拡大
- ▶ 当社の強みを生かした材料開発と顧客や加工メーカーとの価値協創により新規事業を早期に立上げ

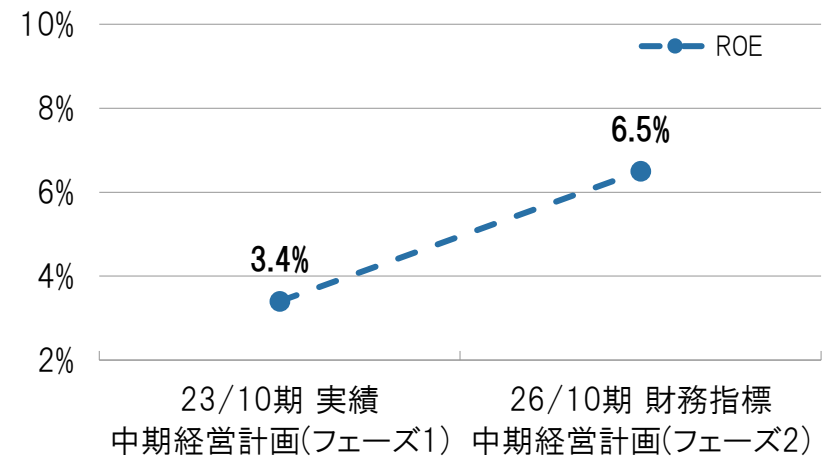
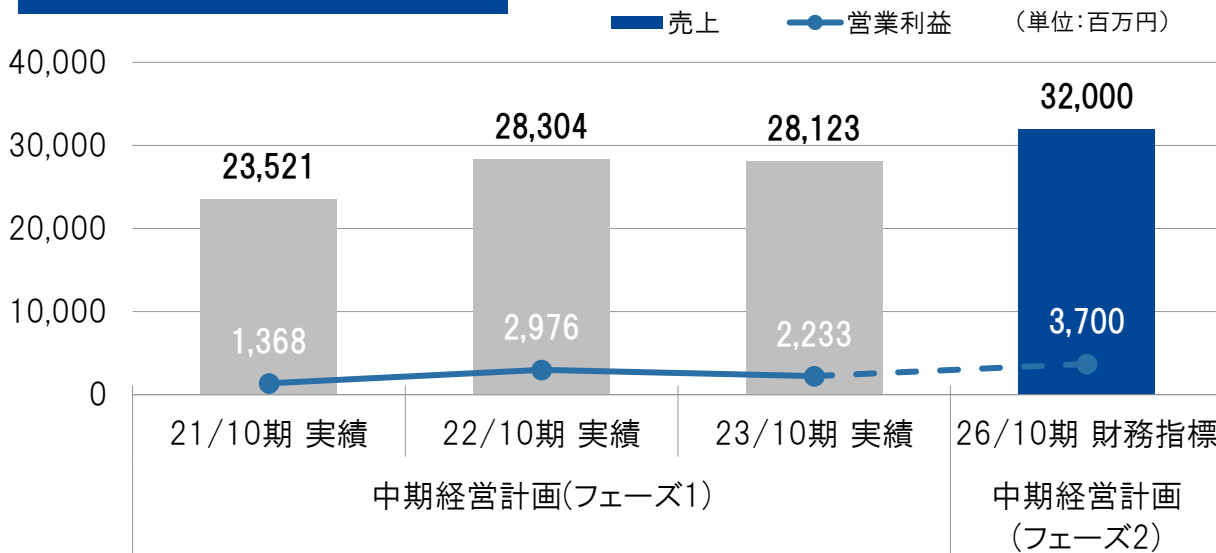
## 【資産効率の向上】

- ▶ 熔解技術の革新 および 自動化推進による生産効率の向上
- ▶ 製品ミックスの変化に合わせたグループ販売体制の再構築 および 生産拠点間での生産品目組み換え
- ▶ 熔解工程 および 加工工程 における外部委託生産の活用

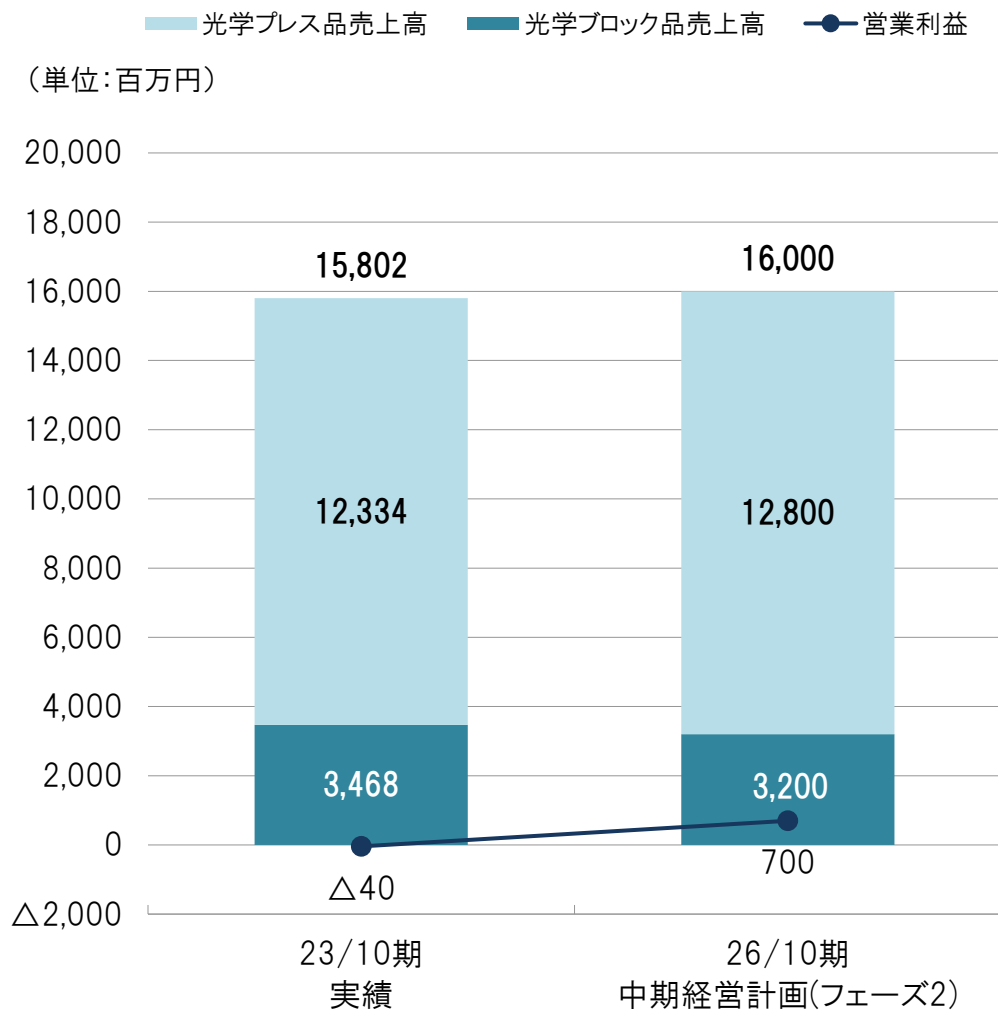
## 【ESG経営の推進】

- ▶ 人的資本における価値創造力の強化
- ▶ 社会課題 および 環境問題(温室効果ガス[GHG]削減 )に対する長期的な取り組みの強化

## 財務指標



## 通期対比



## 課題と取組み

### 【市場環境】

- ▶光学機器向け(デジタルカメラ含む)需要は、横ばいで推移する見込み

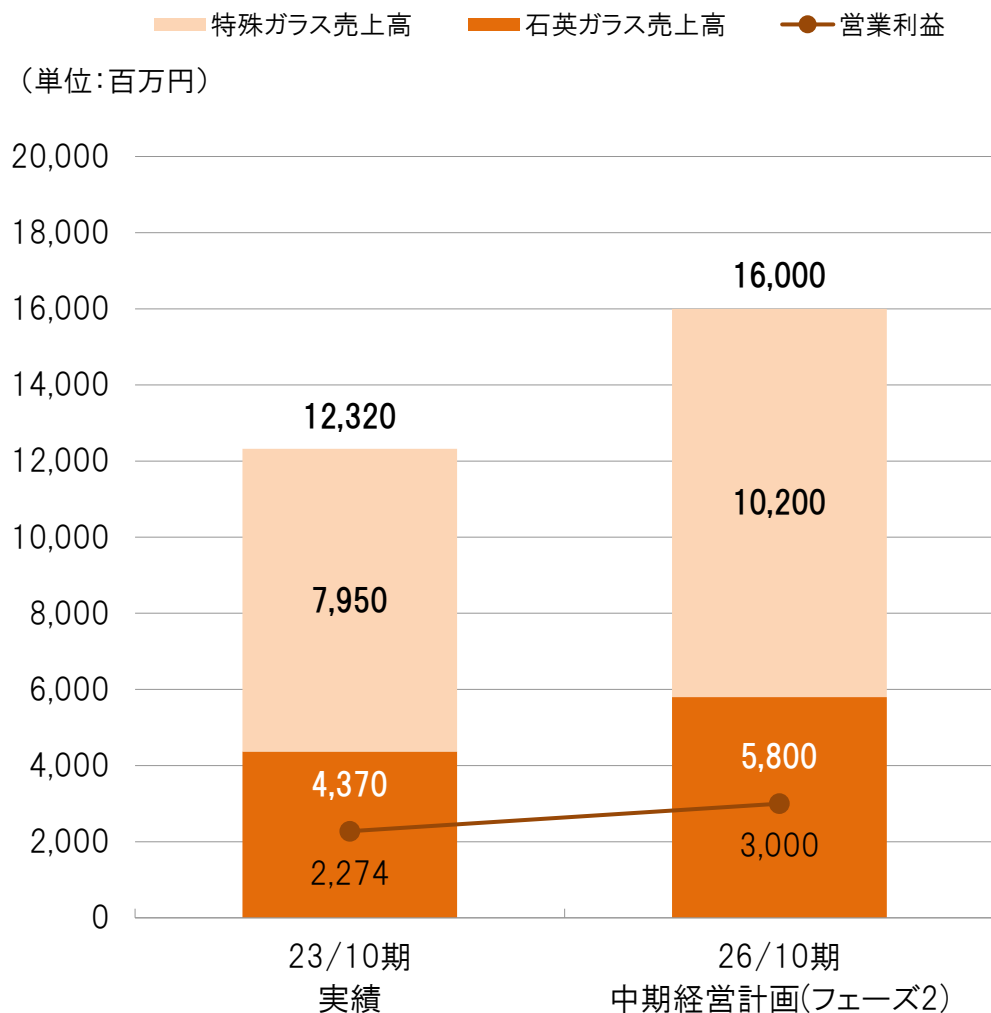
### 【課題】

- ▶収益性の改善
- ▶新ビジネスの量産受注獲得

### 【取組み】

- ▶既存製品はレンズ加工品など付加価値を高めた川下製品を拡販
- ▶XR市場などの成長分野で顧客や差別化技術を持つ加工メーカーとの価値協創を図り、また、外部資源を活用することで新ビジネスの量産受注を獲得

## 通期対比



## 課題と取組み

### 【市場環境】

- ▶ パワー半導体需要の増加など、半導体露光装置市場向け光学ガラス、石英ガラスの需要は好調に推移する見込み

### 【課題】

- ▶ 半導体露光装置向け製品の生産設備増強
- ▶ 新ビジネスの量産受注獲得

### 【取組み】

- ▶ 高均質光学ガラスの加工工程の処理能力の向上、および石英ガラスの生産設備増強により、半導体露光装置向け製品の供給能力拡大ニーズに対応
- ▶ LIBビジネスは添加剤「LICGC™ PW-01」の量産を開始
- ▶ アジア地域でのエレクトロニクス製品の販売体制を強化

## 市場環境

- ▶ LIB市場は、今後のEV普及や再生可能エネルギー活用とその利用効率の向上に適した蓄電デバイスとして、今後も拡大する見込み
- ▶ 今後のLIB用途としてはEV市場が有望であり、2030年には新車販売の50%がEVへシフトする見込み
- ▶ LIBについては当面は液系電池が主流とみられるが、2030年には市場全体の2割程度は半固体電池や全固体電池が占めていると予想する

## 当社取組み

- ▶ 液系リチウムイオン電池の温度特性や電池性能の向上に貢献する添加剤「LICGC™ PW-01」の量産販売を開始、中長期的に10～20億円規模の売上実現を目指す
- ▶ リチウムイオン固体電池のエネルギー密度向上のニーズに応える、半固体電池(酸化物系)向け材料、および全固体電池(酸化物系および硫化物系)向け材料の開発を推進し、実用レベルの特性実現を目指す
- ▶ 2030年代で実用化が期待される金属リチウム空気電池向け材料、原料の資源量の豊富さや低コストな電池として注目されているナトリウムイオン電池向け材料の開発並びに顧客での試作評価を推進する

	23/10期 実績	26/10期 財務指標 中期経営計画(フェーズ2)
売上高	281億円	320億円以上
営業利益	22億円	37億円以上
自己資本利益率(ROE)	3.4%	6.5%以上

※為替レート 米ドル(1USD) 140円 ユーロ(1EUR) 150円



## Appendix(参考資料)

商号：株式会社オハラ（OHARA INC.）  
 所在地：神奈川県相模原市中央区小山1-15-30  
 創立：1935年(昭和10年)10月1日  
 資本金：58億5千5百万円  
 事業内容：光及びエレクトロニクス事業機器向けガラス素材の製造、販売  
 従業員：連結1,476名(単体462名)（2023年10月31日時点）  
 発行済株式総数：25,450,000株  
 株主数：10,576名（2023年10月31日時点）



代表取締役社長執行役員  
齋藤弘和

## 役員一覧

役名	氏名	職名
代表取締役社長執行役員	齋藤 弘和	経営全般
取締役専務執行役員	中島 隆	コーポレート統括
取締役専務執行役員	後藤 直雪	生産、技術統括
取締役常務執行役員	鈴木 雅智	事業部統轄兼事業企画室長
取締役(社外)	市村 誠	
取締役(社外)	戸倉 剛	
取締役(社外)	軒名 彰	
取締役(社外)	牧野 友香子	
常勤監査役	原田 洋宏	
監査役(社外)	高木 晴彦	
監査役(社外)	脇屋 相武	
監査役(社外)	飯塚 良成	

## 大株主

(2023年10月31日時点)

	株主名	持株数 (千株)	持株比率
1	セイコーグループ(株)	4,702	19.3%
2	キヤノン(株)	4,694	19.3%
3	京橋起業(株)	4,688	19.2%
4	三光起業(株)	1,651	6.8%
5	日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	968	4.0%
6	(株)トプコン	673	2.8%
7	セイコーインスツル(株)	610	2.5%
8	オリンパス(株)	400	1.6%
9	NOMURA PB NOMINEES LIMITED OMNIBUS-MARGIN (CASHPB)	128	0.5%
10	オハラ従業員持株会	106	0.4%

※持株比率は、自己株式1,085千株(株式給付信託保有分含む)を控除して計算

中国  
小原光学(中山)有限公司 華光小原光学材料(襄陽)有限公司



日本  
(株)オハラ



(株)オハラ・クオーツ



(株)オーピーシー



米国  
Ohara Corporation



ドイツ  
OHARA GmbH



香港  
小原光學(香港)有限公司



マレーシア  
OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.



台湾  
台灣小原光學股份有限公司 台灣小原光學材料股份有限公司



- 1935 10月：小原甚八が小原光学硝子製造所を創立、東京蒲田にて操業開始
- 1936 11月：光学ガラス熔解開始
- 1944 2月：株式会社に改組、神奈川県相模原に工場を新設
- 1954 5月：白金坩堝熔解開始
- 1958 4月：ランタンガラス生産開始
- 1961 1月：連続熔解ストリップ方式生産開始
- 1962 10月：足柄光学株式会社の株式取得
- 1969 7月：オハラガラス、アポロ11号に搭載
- 1975 8月：低屈折低分散ガラス(S-FPL51)生産開始
- 1981 8月：Ohara Optical Glass Inc.(米国)(現・Ohara Corporation)設立
- 1982 3月：オハラガラス、スペースシャトル・コロンビア号に搭載
- 1983 3月：ステッパ用ハイホモガラス( $\Delta n_d \pm 0.5 \sim \pm 1.0 \times 10^{-6}$ )量産開始
- 1984 3月：高エネルギー物理学研究所へチェレンコフガラス納入開始
- 1985 5月：株式会社オハラに社名変更
- 1986 9月：台湾小原光学股份有限公司設立
- 1987 3月：紫外線(365nm)高透過ガラス生産開始  
5月：有限会社オーピーシー(現・株式会社オーピーシー)設立
- 1988 8月：結晶化ガラス生産開始
- 1990 1月：OHARA GmbH(ドイツ)設立
- 1991 9月：環境対策光学ガラス生産開始  
11月：OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.(マレーシア)設立
- 1993 3月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)生産開始
- 1994 11月：ハードディスク基板用ガラスセラミックス生産開始
- 1997 3月：光学ガラス推奨112種類(当時)のすべてをエコ化
- 1998 4月：ISO9001認証取得
- 1999 1月：オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラSCに搭載
- 2000 1月：低光弾性ガラス生産開始  
4月：ISO14001認証取得  
10月：真空紫外域屈折率測定受託サービス開始
- 2002 5月：小原光学(香港)有限公司設立  
6月：大規模連続熔解開始  
12月：小原光学(中山)有限公司(中国)設立
- 2005 10月：東京証券取引所第一部へ株式上場
- 2006 11月：ファイバー用エコガラス(内視鏡用など)生産開始
- 2007 2月：低蛍光ガラス(顕微鏡用など)生産開始  
9月：オハラガラス、月周回衛星「かぐや(SELENE)」に搭載
- 2008 7月：株式会社オハラ・クオーツを連結子会社化
- 2011 3月：華光小原光学材料(襄陽)有限公司(中国)設立(合併)
- 2012 3月：台湾小原光学材料股份有限公司設立  
8月：オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラHSCに搭載
- 2013 5月：リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGC™)発売開始
- 2014 2月：ハードディスク用ガラス基板事業からの撤退  
3月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、TMT天体望遠鏡に採用
- 2015 3月：非球面ガラスモールドレンズ量産供給開始  
12月：耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス(ナノセラム™)発売開始
- 2016 8月：リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGC™)を使用した全固体電池試作品が-30℃で駆動
- 2017 5月：世界初、車載カメラ専用光学ガラス材発売開始  
12月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、超低高度衛星技術試験機「つばめ(SLATS)」に採用
- 2018 6月：NEDO先進・革新蓄電池材料評価技術開発(第2期)へ参加  
8月：非球面ガラスモールドレンズ新工場稼働開始
- 2019 1月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、キヤノン電子の超小型人工衛星初号機に採用  
2月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、国内最大の望遠鏡「せいめい」に採用  
3月：足柄光学株式会社を解散
- 2019 1月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、キヤノン電子の超小型人工衛星初号機に採用
- 2020 3月：オハラの固体添加材「LICGC™ PW-01」によりリチウムイオン電池の寿命が4倍長持ち
- 2022 3月：耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス『NANOCERAM™』が超小型光学衛星KITSUNEのカメラプロテクターとして採用

## 主要製品

### 製品カテゴリ

#### 光学プレス品

##### レンズブランク



##### 研磨プリフォーム (レンズ加工品)



##### ガラスモールドレンズ (GMO)



#### 光学ブロック品



## 売上高の用途別比率 (単位:%) ※当社想定

光事業	22/10期 累計	23/10期 累計
<b>売上高(百万円)</b>	<b>16,900</b>	<b>15,802</b>
交換レンズ(レンズ交換式カメラ)	55%	55%
プロジェクター	10%	10%
医療機器(内視鏡等)	10%	10%
車載カメラ	10%	10%
監視カメラ	10%	10%
その他	5%	5%
<b>合計</b>	<b>100%</b>	<b>100%</b>

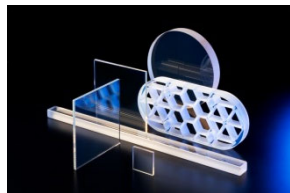
※光学ガラスを納品形態により分類。組成の種類(硝種)は約150種

## 主要製品

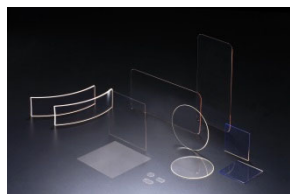
### 製品カテゴリ

#### 特殊ガラス

極低膨張ガラスセラミックス  
クリアセラム™-Z



耐衝撃・高硬度  
クリアガラスセラミックス  
ナノセラム™



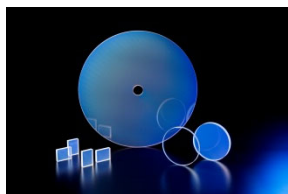
リチウムイオン伝導性  
ガラスセラミックス  
LICGC™



線用高均質性  
光学ガラス



光通信機器向け  
ガラス素材  
WMS™-15



#### 石英ガラス



## 売上高の用途別比率 (単位:%) ※当社想定

エレクトロニクス事業	22/10期 累計	23/10期 累計
売上高(百万円)	11,404	12,320
半導体露光装置(レンズ、構造部材)	35%	40%
FPD露光装置(レンズ、ミラー材)	10%	5%
半導体フォトマスク	10%	10%
光通信機器(DWDMフィルター材)	5%	5%
プロジェクター(TFT基板材)	5%	5%
その他	35%	35%
合計	100%	100%

## 経営理念

オハラグループは、常に個性的な新しい価値を創造して、強い企業を構築し、オハラグループ全員の幸福と社会の繁栄に貢献します。

## コーポレート・メッセージ

## ブランドスローガン

### ひかる素材で、未来をひらく

オハラが願う  
未来・社会の姿

安心で快適な生活。  
創造と希望にあふれた社会。  
健やかな地球。

オハラの  
使命

いつの時代も新たな素材の可能性を追求し、  
多様なパートナーとともにかたちにするので、  
「生活・文化の向上」「フロンティア開拓」「地球環境の改善」に貢献する。

オハラの提供価値

ひかる素材で、お客様の「できる」につなげる。

価値観・姿勢

真摯に向き合う  
妥協なきものづくり  
挑戦のグッドサイクルを回す  
All OHARAでいく  
互いに認め合い、成長しよう

ひかる素材で、未来をひらく

OHARA

- ◆ 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料(計画を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ◆ ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
- ◆ この資料の著作権は株式会社オハラに帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。